



# 代スキ会NEWS no.30

2011.03.26

## 2011年度に向けて

代官山ステキなまちづくり協議会 理事長 伴 文康

この度の東北関東大地震により被災・被害を受けられましたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

代スキ会は今まで「代官山のまちづくり」をテーマに取り上げ活動して参りました。

2007年には「防災と代官山のまちづくり」シンポジウムを開催、来訪者含めて避難、帰宅難民対応等の課題が論議され、その解決には地域コミュニティと一人一人の責任ある行動が重要で、これらへの心構え、仕組みについて論議致しました。この度の地震にその成果の一部が得られたものの、多くの問題を体験・知ることとなりました。これら具体的対応を今年の「代官山のまちづくり」のテーマに加え、種々の活動を展開致す所存です。

その主体は、あくまでも代官山に関係のある方々です。関係する人々や企業のご協力を得ながら、一歩ずつ前進いたします。

サイバードホールディングスさんの進出、CCCさんの代官山プロジェクトのオープンは、今まで代官山にはなかった大がかりな企業の開業ということで、大きなインパクトを与えたいと思いますが、代官山にどうとけ込みリードして頂けるか大いに関心を持たなければと思います。

この度の災害を受けより一層の良好なコミュニティ確保と防災への具体的対応、年中行事化したヒマワリガーデンの充実と、春花祭の定着化のための応援・支援をどうするのか、これらは、代官山の横へのつながりの大きな仕掛けとして大切になって来ています。

懸案の代官山写真集は、関係者の皆さまの努力の結果、目途が付きその発行には期待しております。

新しいテーマは「人にやさしい代官山」の手始めとして、代官山交差点の歩道橋を取り上げます。歩行者への安全のために作られた物が、結果として利用されにくく、もしかすると障害になっているのではと再検証し、これに関連してより安全な旧山手通りの改造を取り上げます。

そして連続座談会「まちづくり」とは何かのテーマの元、各界の方々を迎え、講演と勉強をする機会を計画致しました。多くの方々の参加をお待ちいたします。

今年も私たちの活動にご理解頂きご協力をお願い致します。

## 代官山景観フォーラム

### ■代官山ステキな景観写真展

これまでの活動経過を紹介した以下のマップや写真、ニュースを展示しました。

- ・代スキマップ（2005年発行）
- ・景観ワークショップによる景観資源マップ・景観写真（2010・2011年度活動）
- ・旧山手通りの景観写真（朝倉氏撮影）
- ・代スキ会ニュース：17号～29号

### ■旧山手通りを語る 代官山景観フォーラム『旧山手通りを語りましょう』

2月26日に奈良県代官山iスタジオで“旧山手通りを世界一美しいストリートにすること”を目指し、旧山手通りの魅力や課題について、地域住民や地元関係者により行われました。

旧山手通りは、広い幅員に対し低層な建物と緑が織りなす街並みで、都内でも稀有な地域であり、その魅力は参加者が共有していました。しかし、地元が知らぬ間に、行政の整備計画が進められているなど、公と私とのコラボレーションがうまくいっていないとの声や、階段部分が歩道を圧迫し、昇降の不便さから違法の横断を誘発していると、歩道橋の撤去を求める声も上がりました。

一方、旧山手通りはウォーキングを始め、「公園的な場所」として利用されていることが多く、それに対しガードレールや植栽は、実情の公園的な使われ方と乖離をしているとの意見、駐輪場などが滞在できるように要素も必要であるとの意見も上がりました。それに対し、歩道上の自転車の通行が怖い、また自転車で通行する人は、車道と歩道のどちらを走れば良いのか分からないとの意見もあり、自転車歩行者の増加に対して何かしらの対策を検討していく必要性が取り上げられ、最後には、次世代に向けて、公私を超えて共有財産として良いものを築いていくべきだと声が上がリ、総ての参加者の共通の思いとなったことが今回の大きな成果と言えます。

## ■代官山の生活景調査・景観ワークショップ報告会

### I 景観ワークショップ報告：加藤仁美

まず、代官山のステキな景観づくりのステップとして、2005年度からスタートした代官山サロン活動で行われた景観発見ツアー、その成果をまとめた「代スキマップ」の発行、さらに次へのステップとして、2010年度から代官山景観写真集の発刊にむけて行われた景観ワークショップ、そして意見交換会や景観写真展の様子が紹介されました。

そして、地域の方々や来街者が魅力的だと感じた写真について、地形、骨格(大通り・路地・坂・階段)、建物の用途、敷地の大きさ、植栽や樹木、街の記憶、といった景観構造や要素別に整理してみた結果が報告されました。たとえば、樹木・巨木が創る景観、空が抜ける景観、個人住宅の普通の緑、歴史を刻んだ街並み、店舗空間の創り方、建物の建ち方と空地の取り方・残し方、などがキーワードとして出てきました。

また、代官山ルール(開発計画に関わる事業者と代スキ会との協議)による、昨今の大規模敷地における開発計画に対する地域の要望と、事業者との協議内容を、地域の景観という視点からみた報告がされました。

これらの結果、代官山地域の景観を継承していく方針として、以下の点が確認されました。

#### ○街並み景観：周辺との連続性・調和

- ・商業店舗(小敷地)+樹木+植栽
- ・戸建・マンション(中敷地)+樹木+植栽

#### ○地域価値(歴史性・文化性)を尊重したデザイン

- ・まちに多様性と開放性をもたらす複合的な用途
- ・まちに変化と回遊性をもたらす低層で中小規模の建物による街並み形成
- ・地域価値の向上にむけた地域(代スキ会等)との継続的な話し合い

### II 代官山生活景調査報告：野呂芳明

代官山地域の風景として、大小の建物の更新の連鎖や、代官山固有のイメージから、洗練された建物・店舗への建て替え・更新が進んでいること、また、代官山の見えない境界として、地形や道筋、建物、家賃相場等の経済的境界や空気などがあることが、まず示されました。

そして、代官山に住まう方々(約30名)へのヒアリング調査結果の紹介がありました。日常の暮らし方の中で認識されている代官山地域の境界はどのような範囲か、についての調査結果から、旧住民は比較的狭く、新住民は比較的広くとらえていることが、明らかにされました。また、新住民の声として、町内会がしっかりしていて親密な関係が作りやすく驚いた、一方で、旧住民の声には、街の変遷やスピードについていけない等がみられることが、紹介されました。

その結果、代官山を暮って仕事をしに来る人、来訪者の存在を意識したまちをつくっていく営み、住んで働いてという日々の暮らしにおけるまちの大切さを大事にする必要性が、示されました。

### III 意見交換

会場からは、次のような意見が出されました。

- ・昔の代官山の風景(同潤会や森永ベーカリー)にノスタルジーや温かさを感じたが、現在の街並みは、ハード面(鉄骨やガラス)から、気取って人を受け入れない感じがする。生活感がなく、商業的である。
- ・祭りが淋しくなった。一方で、猿楽祭や春花祭など、重層的な活動が幅を広げながら形成されつつある。
- ・新住民は、地場の人が受け入れてくれる、町内会が生きていると感じている。旧住民が住み続けていることに、地域の価値が見出される。

以上から、今後は、旧住民と新住民の人間のつながりの場をどう創るか、どういう接点・きかけをもてばつながっていくのか、まちの情報の共有、人的資源の発掘や場づくりを考えていくべきことが、課題として浮き彫りになりました。

